



しお姫

発達障がい を正しく理解しよう

—正しい理解の広がりでもう誰もが過ごしやすい環境へ—

発達障がいとは

発達障がいは、親のしつけや子どもの努力不足などではなく、脳の機能的な問題が原因といわれています。日常生活において、困難さや不便さを感じるなど、幼い頃から何らかの症状が現れることもあります。発達のアンバランスが見られることもあるため、苦手なことがある反面、とても得意なこともあります。発達障がいを持つ方は、周りの人の理解や接し方によって安心して日々の生活を送れ、持っている力を発揮できるのです。

※発達障がいは、①自閉症スペクトラム障害、②注意欠陥多動性障害(AD/HD)、③学習障害(LD)に分けられ、それぞれ特性は異なります。

主な特性

- 集団のルールや相手に合わせた行動、やり取りが苦手
- 特定の習慣や興味・関心のかたよりのこだわりがある
- 相手の気持ちを推測したり、共感したりするのが苦手
- 注意を向けたり、衝動を抑えたりすることが難しい
- 感覚の過敏さ、鈍感さがある
- 学習能力がアンバランス など

しかし

特性の現れ方はさまざま、見た目では分かりにくい…。
本人たちが苦手に思ったり、困っていることは理解されにくい。

じつは

「何回言っても通じない」「落ち着きがない」などといった問題と見られている行動が、「困った!」「助けて!」のサインかも!



安心できる接し方のポイント

- ① 本人の目線に立って「困っているところ」を考えてみましょう。
- ② ゆっくりと穏やかな口調で、具体的な要点のみを伝えてみましょう。紙に文字、絵、写真などで書いて伝えると、理解しやすいこともあります。
- ③ 「興味があること」「好きなこと」を伸ばし、「出来たこと」「頑張っていること」を見つけてほめてみましょう。

今年度、保健センターでは「発達障がいの特性・疑似体験」をテーマにした研修を予定しています。「発達障がい」とはどのようなものか、どのように周りが見え、感じているのか、どのようなことに困っているのかを一緒に学びませんか。
研修の詳しい内容は、今後「広報しおがま」や本市ホームページなどでお知らせします。



なのっちー

問 保健センター ☎364-4786



東雲会主催の勉強会。こころに病を持つ方が、自分の病気の体験を語り伝える「スピーカーズビューロー」を行いました。

ひとりで悩んでいませんか?

—精神障がい者家族会「東雲会」の紹介—

家族同士で励まし合い、助け合いながら活動しています。家族が安心して生活できることは、精神障がい者にとっても大切なことです。東雲(しのめ)会では、本人と家族が地域の中で安心して暮らすための情報交換や勉強会をしています。市内に住んでいる精神障がい者の家族の方、話せる場がここにあります!

活動紹介

- 会員同士の交流や情報交換を行う「家族交流会」の開催
- 研修会への参加、開催
- ほかの市町の家族会や福祉団体との交流
- 地域活動センター(藻塩の里)活動への参加、支援
- 「おしゃべりサロン」の開催 など



会長 阿部啓子さん

家族に「こころの病」を持つ人がいて、どうしたら良いか悩んだり困ったりしている方は「おしゃべりサロン」へどうぞ。

同じ思いをしている人とざっくばらんに話をして、肩の荷を少し下ろしてみませんか?

◆5月のおしゃべりサロン◆

とき 5月17日(火)10:00~12:00

ところ 保健センター

問 東雲会 阿部 ☎364-1013、保健センター ☎364-4786